

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月7日(土)

### 《見せびらかす》

弁護士の資格をとったばかりの青年が、自分の事務所を開きました。開いたばかりの事務所なので、設備が備えられていません。そこで、立派に見えるように高級なものをたくさん買って、事務所を飾りました。その中に、一つの高級な電話機がありましたが、その電話機はまだ電話線とつながれていなくて、ただテーブルの上に置かれていました。青年は、ある程度準備が出来たと思い、お客さんが来るのを待っていました。そこへノックの音がします。彼はわざと15秒くらい待たせてから「はい、どうぞ。」と答えます。そして、お客さんが入って来るのを見ながら、受話器を持ち上げて電話で話しているようなふりをします。「ああ、困りますね。100万円以下ではこの事件は解決できませんよ。」と言ってから、会話をするふりを続けます。そして電話を切ってから「お待たせしてすみませんでした。どのようなご用件でしょうか。」と聞きます。するとそのお客さんは「私は電話局の者です。電話線をつなぐために来ました。」と答えました。

今日の福音(ルカ 16:9-15)に、「見せびらかす」という言葉があります。この青年は、お客さんに「見せびらかす」つもりでわざとお芝居をしたのですね。しかし、線をつないでない電話の受話器を持って話している彼の姿を見た電話局の人は、どんな気持ちだったのでしょうか。そして、「電話線をつなぐために電話局から来ました。」という答えを聞いて、この弁護士はどのくらいとまどったのでしょうか。

今日の福音の最後に「神には忌み嫌われる」という言葉があります。神様が忌み嫌われることとは何でしょうか。結局、この弁護士が見せようとしたような意味もない姿ではないかと私は思いました。

今日、ファリサイ派の人々についての説明で、「金に執着するファリサイ派」という表現がありました。ファリサイ派の人々の仕事は何でしょうか。彼らの仕事は、神様の心を量り、人々に正しくみ旨を伝えることです。しかしそれは、表面的な振る舞いでしかなく、心の中はいつも富に執着していることをイエス様は見通したのでしょうか。そして、叱っているのです。イエス様は、今日の福音ではっきりおっしゃっていますね。「神と富と同じように仕えることはできない。」と。

私たちは、執着しているものによって、神様に集中する心を見失ってしまう場合があるのではないかと。私たちが神様に集中することを妨げる執着の対象には何があるのか。いつも考える必要があるのではないかと考えてみました。

ありがとうございました。